



「安全安心な医療をめざしてソフト面も充実」

病院長 小林 祥泰

お陰様で今年度から第2期目の病院長を務めさせて頂くことになりました。新病棟の工事も始まり、外来患者さん用の立体駐車場工事など皆様にご迷惑をおかけすることも多いかと思いますがしばらくの間ご容赦をお願いします。また、病院の南西に橋を架けて出入口を作りました。その近くの院内保育所も倍の定員に増築中です。南西口駐車場も新設しましたのでどうぞご利用下さい。

昨年は循環器内科、また4月から脳神経外科、救急医学、病理学の新しい教授が誕生し、若い力による病院活性化が期待されます。これからますます重要になってくる救急医療、救急研修の充実に向けて病院を挙げて支援していきます。全国初の医員、研修医の年俸制常勤化も行い最前線の医師の待遇改善を行いました。認定看護師手当て新設、研修奨学金などキャリアアップにも力を入れています。患者サービス向上の原動力である職員のQOL向上にはさらに努力したいと思います。

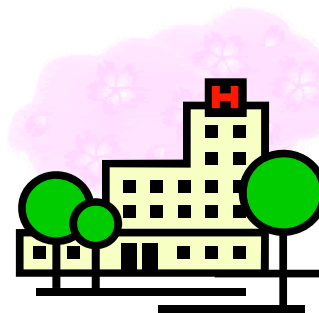
また、出雲市に支援して頂いている腫瘍センターでのがん治療の充実、がん専門医等の育成も順調に進んでいます。さらに安全安心な医療を推進するため看護部長が副病院長を兼任し、質の高い医療維持を担当して貰うことにしました。人工呼吸器などの医療機器の一括安全管理を行うMEセンターも立ち上げました。臨床教育面でも地域医療教育研修センター、病院医学教育研修センターを設置し、東京医科歯科大学や神戸大学等と連携した大学病院連携型高度医療人養成プログラムなどが本格的に動き出しています。今年度も教職員や学生の海外研修や米国からの講師による国際化教育をさらに充実させて継続する予定です。年々増加している若い医療人の皆さんが着実に力をつけて、2年後の新病棟完成時には新しいシステムのチーム医療の強力な戦力として活躍してくれることを期待しています。

理念

地域医療と先進医療が調和する大学病院

目標

- ・患者さん中心の全人的医療の実践
- ・人間性豊かな思いやりのある医療人の育成
- ・地域医療人との連携を重視した医療の提供
- ・地域社会に還元できる研究の推進



- 目次 -

「安全安心な医療を目指してソフト面も充実」……………	1P	地域医療教育研修センター長就任のご挨拶……………	9P
「起工式」新病棟に願いを込めて……………	2P	MEセンター長就任のご挨拶……………	10P
南側進入口ができました……………	2P	看護部長就任のご挨拶……………	10P
体外衝撃波結石破碎装置が新しくなりました……………	3P	ささえあい医療人権センターCOML(コムル)による「病院探検隊」の実施について……………	11P
当院におけるマンモトームの導入について……………	3P	「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」プログラム参加の感想……………	12P
本院が県内唯一の献腎移植登録施設として認定されました……………	4P	「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に参加して……………	12P
顎顔面インプラントセンター開設のご案内……………	5P	飛び出せ病院説明会"インフォメーション・スクエア"を実施……………	13P
乳がんにおけるセンチネルリンパ節生検の先進医療認可について……………	5P	検査部採血室の待ち時間が大幅に短縮されました……………	14P
脳神経外科科長就任のご挨拶……………	6P	患者サービス室外来担当及び入院担当業務の全面外部委託と「レセプトデータ電算チェックシステム」の導入について……………	14P
救急部部長就任のご挨拶……………	6P	平成20年度 島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催……………	15P
病理部部長就任のご挨拶 - 先進的な病理部門の構築を目指して……………	7P	病院運営委員会の報告、その他のニュース……………	15-17P
卒後臨床研修センター長就任にあたって……………	8P	行事予定、研修会・講演会・学会等の予定……………	18P
病院医学教育センター長就任のご挨拶 - 地域と病院のためにより良い医療環境の構築……………	8P		

『起工式』新病棟に願いを込めて

施設整備課

平成21年2月18日(水)午前10時より、出雲キャンパス構内の新病棟建設予定地に於いて、新病棟の無事完成を祈願して「起工式」を執り行いました。

当日は、2月のこの時期にしては良い天候に恵まれ、さい先の良いスタートが切れました。本学からは、本田学長をはじめ小林病院長ら関係者15名が、また、来賓として島根県から松尾副知事、山根健康福祉部長、出雲市から井上健康福祉部長外の5名の方々、並びに、設計及び工事関係業者12名の、総勢

32名の方々にご列席を賜り、厳かに挙行されました。

今後、本格的に工事が始まり、平成23年6月末までの30ヶ月間、事故等のトラブルもなく、予定通り無事に建物が完成することを、関係者一同心より願うものであります。引き続き、患者さんを始め関係者の方々には、騒音・振動・埃等でご迷惑をお掛けするかもしれませんが、最大限の努力をし最善をつくしてまいりますので、何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



起工式会場



本田学長による鍬入式

南門ができました

施設整備課

昨年未より、看護師宿舎の南側敷地境界沿いに於いて、南側国道184号線より本学敷地内へ直接進入できるように、橋を設置する工事を行ってまいりました。

3月末には無事完成し、この4月からすでに供用を開始しています。従来、キャンパスの南側には車輛用の進入路がなく、南側方面からお越しの方々には、敷地北側のメイン道路まで一端迂回してから来院(来学)して頂くといった、ご不便をお掛けしていました。この度、塩冶赤川に橋を架けることにより、長年の懸案事項の解消を図ったところであります。

橋の構造は、既存コンクリート製で、アスファルト舗装にて仕上げられています。長さは10 m程度あり、車道部分は7 m幅の対面方式、歩道部分は2.25 m幅の自転車兼用となっており、橋の両側には転落防止用のガードレールが設置されています。

現在、病院の再開発に着手したところであり、工事関係車輛も原則この橋を利用することとしています。したがって、全ての工事が完了する平成25年3月ま

での間は、大型トラックや生コン車輛等も通行します。患者さん等一般のご利用者、職員・学生・サービス関係車輛、自転車、歩行者の全ての方々が利用することとなり、時間帯によっては、特に混雑して危険性が増すことも考えられます。工事関係車輛につきましては、交通整理員を配備する等、施設の充分配慮致しますが、くれぐれも事故のないようご通行願います。



新設した南門と構内道路状況

体外衝撃波結石破碎装置が新しくなりました

泌尿器科 有地 直子 井川 幹夫

尿路結石に対する体外衝撃波結石破碎（ESWL: Extracorporeal Shock Wave Lithotripsy）装置が我が国に導入されてから既に20年以上が経過しました。体外衝撃波結石破碎術は体外で発生させた衝撃波を一点に集め、体内の結石に当てることで結石を破碎する治療法で、現在では尿路結石治療の第一選択となっています。

ESWLは、開腹手術ではないため低侵襲 外来通院で治療が可能 治療後の疼痛や副作用が少ない 治療直後から社会復帰が可能などの特徴が挙げられ、これまでも当科外来でESWLを施行してきましたが、2009年2月より最新型の体外衝撃波結石破碎装置、EDAP社製ソノリス・ビジョンを導入し、旧装置と比較して、痛みが少なく高い碎石効果を認め、30分から1時間以内に治療を終了することが可能となりました。治療時間が短縮され、これまで以上に結石の治療がより確実かつ簡便に施行できるようになりました。碎石効果が高いことから、ESWLで碎石できず内視鏡的碎石術に移行する症例が少なくなり、より低侵襲の碎石治

療を提供できることとなります。さらに尿路結石のみならず、膵石や胆石に対しても治療選択肢の一つとして今後その効果が期待されます。また、すべての治療データが画像と同時に保存管理可能で、治療データの分析を簡便に行うことが出来ますので、今後は新装置のデータ解析を定期的に行い、尿路結石の治療成績の更なる向上を図りたいと考えています。



当院におけるマンモトームの導入について

乳腺内分泌外科 板倉 正幸

マンモトームは、乳房の組織生検用に開発された針生検器具で、乳房の中に発見された病変の一部または全部を採取して病理組織診断を行うための装置です。近年マンモグラフィ乳がん検診の普及により、マンモグラフィで発見される非常に細かい非触知の石灰化（微細石灰化）病変が増えています。従来、従来の穿刺吸引細胞診で確定診断をつけることが困難で、また外科的生検も難しい症例が多々見られます。マンモトームは専用のX線を用いた装置（ステレオタクティック・マンモグラフィ）で刺入のガイドをしながら正確に乳房を穿刺し、目的とする病変部の組織を吸引システムを併用しながら採取します。使用する針は11G～14G（外径1.8～2.3 mm）とやや太いのですが、1回の穿刺で大きな多数の組織標本が採取でき、針の周囲360°の採取が可能、傷痕も外科的生検に比べはるかに小さく縫合の必要がない等の利点があります。また、超音波装置でガイドしながら穿刺することも可能です。

マンモトームには座位型と腹臥位型の2つのタイプがありますが、座位型の場合目の前で乳房をはさんで針を穿刺するため患者さんの心理的不安が大きくなりますので、当院では腹臥位型を導入し、患者さんの精神的、肉体的負担を出来るだけ軽減するようにしています。生検後は、組織を採取した部位にチタン製のごく小さなマークを留置します。採取した組織から乳がん

が見つかった場合はこのマークを目印に手術を行います。手術が必要でない場合は、その後のマンモグラフィを撮影する際の目印とします。

全国的にはマンモトームを導入した施設では、早期乳がんの発見率が増えています。当院でも、乳がん患者さんをより早期に発見し、治療が出来るよう努力していきたいと考えています。マンモトーム生検装置は、放射線部に設置してありますが、各部署のご協力をよろしくお願いいたします。



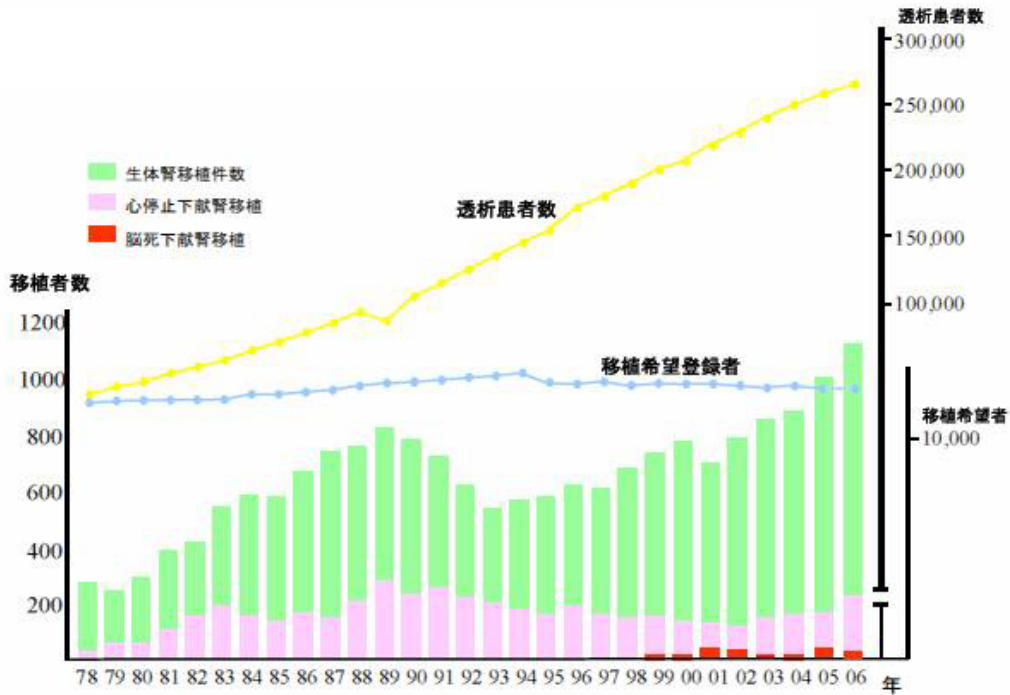
腹臥位型マンモトーム

本院が県内唯一の献腎移植登録施設として認定されました

泌尿器科 有地 直子 椎名 浩昭 井川 幹夫

当科では3年前より生体腎移植術を再開し、現在までに8例の生体腎移植術を施行しました。免疫学的にハイリスクと考えられる症例も含め全例で移植腎は生着しています。献腎移植は、この数年間県内では行われておらず、これまで献腎移植登録施設であった2病院が登録を辞退したため、本年4月から本院が県内唯一の献腎移植登録施設となりました。日本国内で透析治療を必要とする慢性腎不全患者数は26万人をこえ、今後ますます移植医療の担う役割が大きくなると考えられます。腎移植には手術に関するリスクや免疫抑制剤による副作用などの問題点はあるものの、生存率、QOLの面では移植の方が透析よりも優れています。しかしながら、わが国の移植臓器不足は深刻で、献腎移植希望登録者が移植を受けるまでの待機期間は平均14年といわ

れています。島根県内に献腎移植希望者は現在48名いらっしやいますが、県内ドナーが発生しない限りその方々が移植を受ける可能性は極めて低く、献腎移植を推進するためには県内のドナーを増やす体制作りが最も重要なポイントとなります。当科のスタッフ数は決して多いとは言えませんが、これらの方々が少しでも移植の機会を得られるように啓発活動を行うとともに、より良い移植医療を目指してスタッフ一同努力する所存です。献腎移植は、移植を受けられる患者さんのメリットが大きい分、医療従事者の労力もそれだけ必要になります。多くの診療科、部門のスタッフの方々に協力を求めることもあるかと思いますが、その際には何卒よろしくお願い申し上げます。



わが国の透析患者、移植登録患者および移植件数の推移



顎顔面インプラントセンター開設のご案内

歯科口腔外科 関根 浄治

この度、島根大学医学部附属病院では歯科インプラント治療を専門とする顎顔面インプラントセンター開設の運びとなりました。

皆さんの大切な歯が失われたとき、私どもは皆さんに5つの治療法を提示できます。それらは、1) 歯の移植 2) 固定式のブリッジ 3) 取り外し式の義歯 4) 経過観察、そして、5) インプラントです。

インプラント治療はすでにご存知の皆さんも多いかと思いますが、顎の骨の中にチタン製の金属（フィクスチャ）を埋め込み、これに連結装置（アバットメント）を連結し、最終的に歯を取り付ける治療法です。かつて、インプラント治療の適応は顎骨の状態によって制限が多く、また治療にも長期間を要していました。しかし、現在ではコンピュータガイドによる手術システムにより、即日インプラント義歯を装着することも可能です。

かつてインプラント治療が不可能とされた皆さんにも、今は最新の技術とより安定したインプラントシス

テムの組み合わせで咬むよこびと美しさを提供できます。

顎顔面インプラントセンターにて行うインプラント治療は、一般医療と比べるとその技術・治療効果が極めて高いですが、費用はすべて自己負担です。腫瘍や外傷等で通常の義歯では咀嚼機能の回復が困難な患者さんに対しては、これまで通り歯科口腔外科にて先進医療としてインプラント治療を提供して参ります。

お口の中に何かお困りのことがありましたら、病院受付・歯科口腔外科までどうぞお気軽にご相談ください。私ども大学病院の医療は、地元医師会・歯科医師会の先生方との密な連携によって成り立っています。受診の際にはどうぞお近くの医療機関からの紹介状をご持参ください。皆さんのお口の健康を支えて差し上げるのがわれわれの使命です。

参考：歯科口腔外科ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/oral/index.html>

乳がんにおけるセンチネルリンパ節生検の先進医療認可について

乳腺内分泌外科 板倉 正幸

現在、乳がんにおけるセンチネルリンパ節生検は、腋窩転移陰性早期乳がんに対して、腋窩リンパ節郭清に変わる手術手技として世界的に普及しつつあります。センチネルリンパ節とは、リンパ行性にがん細胞が転移する場合に最初に流れ着くリンパ節のことであり、乳がんの場合このリンパ節に転移がなければそれより先の腋窩リンパ節に95%の確率で転移がないことが証明されています。センチネルリンパ節生検で転移陰性であれば腋窩郭清を省略することの妥当性が医学的には認められており、その場合乳がん術後の患側上肢のリンパ浮腫の出現を予防することが出来、患者さんにとっては非常に役立つ治療法です。

しかしながら我が国においては保険適応はなく、先進医療、臨床研究などとして行われているのが現状です。この検査には色素法とアイソトープ法があり当院では色素法にさらに赤外線蛍光カメラを併用する方法

を用いて、センチネルリンパ節生検の精度の向上と時間の短縮を図っています。

この検査に用いる検査薬（色素とアイソトープ）は、現在医薬品として国内で製造、販売されているものですが、センチネルリンパ節生検は新しいものであるためこのような使用法は認可されていません。従って今までは保険請求は出来ませんでした。このたび厚生労働省から当院での先進医療としての実施が認可されました。当院で行うセンチネルリンパ節生検に際して患者さんに負担していただく実費分の検査費用は検査1回あたり約63,000円となります。

今後は、乳がんにおけるセンチネルリンパ節生検の保険適応を目指して、全国レベルでの安全性の臨床確認試験を継続して参りますので、引き続き皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

脳神経外科科長就任のご挨拶

平成21年4月1日より脳神経外科科長を拝命いたしました。

私は、平成18年より副科長として当院の脳神経外科診療に携わって参りました。主な専門診療分野は、脳腫瘍と脳血管障害ですが、脳血管障害は診療する側の努力によって発病の予防が可能な疾患であり、これまでやりがいをもって行ってきた診療分野です。

脳血管障害は予防が重要であり、一旦発病して脳卒中となつてからの治療では重篤な後遺症を残してしまいます。このため、脳神経外科は本来メスを入れて病気を治す診療科ではありますが、高血圧や高脂血症などの脳卒中危険因子となる基礎疾患についても積極的に治療に参画し、外科的な立場から脳卒中の1次予防の重要性について県内での啓発活動に携わって参りました。そのうえで、脳卒中を発症する危険性の高い脳血管閉塞や高度狭窄に対して、外科としての治療も行ってきました。当診療科では、バイパス手術などの外科的な切開手術ばかりでなく、脳神経血管内治療と呼ばれる“切らないで治す”治療法によって、高齢の患者さんにも積極的な脳卒中予防的治療を行って参りました。島根県は人口の高齢化がすすんでいます、ご高齢の方でも元気な方が多く、当院が力を入れているがん診療と共に、低侵襲な脳卒中外科に力をいれてゆく

脳神経外科 科長
教授 秋山 恭彦



ことで、県民の方の健康を高いレベルで達成できると信じております。脳神経外科の立場から、今後も関連診療科と連携し、島根県の脳卒中予防の一翼を担えるように努力をして参りたいと考えています。

そのほか、脳神経外科は脳と神経という小さな領域に特化した診療科ではありますが、脳腫瘍、頭部外傷、神経の機能疾患、脊髄疾患など様々な神経の病気の診療に携わっています。今後も微力ながら、島根の県民の方々の健康、そして、大学病院として脳神経外科医療の発展に貢献できるように努力いたします。どうかよろしくお願ひいたします。

救急部部長就任のご挨拶

このたび、先代教授 坂野 勉先生の後任として、4月1日付けで島根大学医学部附属病院救急部部長に就任いたしました橋口尚幸と申します。若輩者ではありますが、全力で業務に邁進いたしますので、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、私の略歴を述べさせていただきます。広島出身で、平成2年（1990年）に大分医科大学を卒業後、救急医学を専攻するため大阪大学特殊救急部に入局いたしました。奈良県立医科大学救急科で臨床研修を行い、その後サブスペシャリティ取得の為、関西労災病院、枚方市民病院で一般外科研修を受け、平成8年から西宮、阪大、鳥取と救命救急センターに勤務しました。平成14年からは、おかげさまで幸運にもアメリカ、サンディエゴのカリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）外傷学研究室に勤務する機会を得ることが出来、3年間の研究者生活を満喫させていただきました。帰国後の進路について困っていたところ坂野教授にお声をかけていただき、平成17年10月から島根大学にお世話になっております。

これまで救急部は、皆様の多大な援助の元に運営されてきました。残念ながら救急部員は計2名となります

救急部 部長
教授 橋口 尚幸



ので、心苦しいながらさらに助けていただく事が増えると思います。急激に変化することは出来ませんが、それでも皆様のお力を借りながら、少しずつ症例の幅を広げ、「患者さん中心の、人に優しい医療」を推し進めて参りたいと考えています。また、防災ヘリを活用したドクターヘリ事業も近隣の病院との関係を探りつつ、これまた皆様のお力も借りつつ展開していきたいと考えています。「なんか、救急部、面白そうなことやってるらしいぜ」と言われるような元気のある救急部を目指して参ります。皆様のご支援、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

病理部部長就任のご挨拶 - 先進的な病理部門の構築を目指して -

このたび病理部長を拝命致しました丸山です。私は平成9年に副部長に就任して以来、約12年間一貫して病院の現場で病理医として勤務してまいりました。その間、原田元部長、並河前部長の指導のもと、若い先生方と微力ながら院内の診断部門の要としての病理部の発展に、懸命に努力してきたつもりであります。以前と比べ病理を取り巻く医療環境は大きく変化しましたし、病院病理の役割は単に病理診断を下すというだけにとどまらず、治療への大きな貢献が求められる時代になっています。ポストゲノム時代に入って、病理の役割は益々重要になってきているといっても過言ではありません。さらに一昨年に標榜科としての病理診断科が認められて以来、病理は基礎医学から臨床医学へ大きく舵をきったといわれています。日本では諸外国に比べ一般社会での病理医の認知度は非常に低く、医師数も極端に少ない状態が続いています。人口比において米国の1/5です。医療制度の違いを理解した上でも、一度米国の現場を体験してみるとその差に愕然とせざるをえません。

そのような中で、我々島根大学医学部附属病院の病理部が行ってきたことには、他大学にはない特徴がいくつかあり、病理医の育成においても他施設から認め

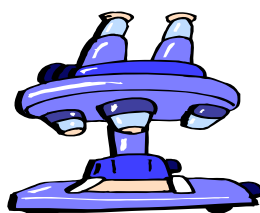
病理部 部長
教授 丸山 理留敬



られているところであります。しかし決してまだ充分とはいえず、医療環境の変化に対応しつつさらに努力しなければいけないことは非常に多く、これからも増え続けることが予想されます。専任は副部長一人という現場ですが、遺伝子診断の導入や増加する一方の免疫染色項目への対応など、病理学講座や近隣の病院と協同歩調を取ってやっていきたいと思っております。しかし何よりも患者さんにとって大切なことは、臨床各科との緊密な連携と考えていますので、病理部の業務に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。



毎日行われる生検検討会



卒後臨床研修センター長就任にあたって

本年4月から杉本センター長の後任として、卒後臨床研修センター長に就任しました。

平成16年4月から始まった臨床研修制度が今年で6年目を迎えました。研修の必修化は、研修に専念しプライマリ・ケア能力を習得する上である程度の成果をあげた事は事実であります。ご承知のように大学での研修医が激減したことで、さまざまなひずみを引き起こしています。島根大学も例外ではありませんが、来年度よりこの制度の見直しが始まります。その主な内容として、必須の研修内容と期間の柔軟性が増すことが予想されます。従って本院での研修内容も、研修医の将来を見据えたキャリア形成に対応して、より弾力性のある研修を提供する必要があります。

大学病院での研修は設備や指導体制においては市中病院より勝っていますが、症例の種類や数において不利な面がありました。これらを補うのがたすき掛け研修のメリットであります。幸いこれまでの研修センターの努力により、島根大学での研修プログラムは地域の医療機関との密接な連携を特徴とし、都市型総合病院から僻地医療までカバーする幅広いプログラムを提供しております。今後これをさらに充実させ、研修医の将来のキャリア形成をサポートしていきたいと考えています。また数年後には地域枠推薦等を通じて入

神経内科 科長
教授 山口 修平



学してきた学生の受け入れも始まり、ますます多彩なニーズに答える研修プログラムの提供が必要になると考えています。

本学の卒業生が研修病院として島根大学病院を選ぶかどうかは、病院実習をふくめた卒前教育がどれだけ充実しているかが極めて重要と思います。彼らが6年間学んだ本学で研修をしたくなるような体制を作るために、全ての職員の皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。

病院医学教育センター長就任のご挨拶 - 地域と病院のためのより良い医療環境の構築 -

昨年4月、本院特殊診療部門に病院医学教育センターが設置される際、副センター長として着任致しましたが、本年4月1日付でセンター長に就任することになりましたので、就任のご報告とともにご挨拶申し上げます。

さて、わたくしは、本学の前身である島根医科大学と同様、一県一医大構想のもとで開学した新設医科大学を卒業しています。卒業後母校に残り、大学院修了後、地域医療への貢献のため、多年にわたり各地の病院で外科医として勤務してきました。そのなかで外科医の修練システムに疑問を持ち、新設された公衆衛生専門大学院で再度、わが国の医療の根幹をなす医療システムについて考える機会に恵まれました。それが、今のわたくしが専門とする医療経済学や医療管理学です。

一方、NHKの朝ドラ「だんだん」でも、地域医療の問題点が浮き彫りにされていました。臨床研修制度の開始や国立大学の独法化等により、地理的に不利な島根県は、平等であるべき医療においても、地域格差

病院医学教育センター長
准教授 廣瀬 昌博



の影響が深刻です。そのなかにあって、病院は、医療の安全と質の高い医療を提供しつつ、限りある医療資源の効率化という、相反する命題を課せられています。

「医療管理学」は、「医療経済学的」手法により、臨床研究に関するエビデンスを明らかにし、「あるべき医療」を提示するもので、「病院医学」と同義であると考えてよいでしょう。そしてそれを実践するのが「病院医学教育センター」です。

また、本センターは、医療従事者の資質向上を目的とした生涯教育に関する統合部門と位置づけられ、これに関する情報を総合的に管理・統括するとともに各部門・部署の枠を越えて調整する部門です。このことは、同時に患者さんに提供される医療が安全で安心であることを担保することにほかなりません。

したがって、医療人の資質向上と安全で安心な医療提供を目指して、「病院医学」を医療経済学的に検証・実践することで、歴史と伝統ある島根県という population-basedな社会や本院はもちろんのこと、国内外にも貢献できるものと考えています。

地域医療教育研修センター - 長就任のご挨拶

この度、平成21年4月1日付けで地域医療教育研修センター - 長を拝命しました石橋 豊です。初代センター長であります地域医療教育学教授熊倉俊一先生から任をバトンリレーされました。どうぞよろしくお願いいたします。

島根大学では、「卒前、卒後、生涯教育までの一貫した地域医療人育成」をスローガンとし、医師だけではなくコメディカルの方々の教育研修も重要として、島根大学医学部附属病院では3つの教育研修センターが構築されています。卒後臨床研修センター、病院医学教育センター、地域医療教育研修センターの3つです。卒後臨床研修センターは卒後初期研修医を対象とし、病院医学教育センターは院内の医師およびコメディカルの方々を対象とし、地域医療教育研修センターは、後期研修医を対象とする一方で島根県内の地域医療従事者も対象とした教育研修システムです。地域医療崩壊が叫ばれる昨今において、島根の医療事情も例外ではありません。県内医療人育成を最重要任務として、県内にとどまる医師、看護師を如何に増やすかを緊急の課題とする一方で、地域医療の現場の充実も重要な課題と認識しております。

平成20年度からは県の地域医療関連の事業を島根大学医学部附属病院に全面的に委託されていますが、この度の就任にあたり、1) 島根大学医学科、看護学科新卒業生を如何に多く残すか、2) 地域の医療現場での医療人育成意識の高揚を目的としての医師およびコメディカルの方々の再教育の場の提供、の2つを主な骨子

地域医療教育研修センター長
准教授 石橋 豊



として、学内での地域医療教育学講座、各教育研修センター、看護学科と連携する一方で、地域医療機関、県および市町村の行政機関との密な連携をしながら県全体の医療レベルの向上をはかり、ひいては全国有数の老人県でありながら早期からの病気予防を実践できる医療環境の構築へつなげていきたいと思うところです。

島根大学医学部ホームページには地域医療教育研修センターのホームページもございます。そこには皆さんの声を届けていただける窓口の創設も準備しております。地域医療充実の大任をまえに非常に緊張しておりますが、皆さんとの対話を大切にしながら頑張りたいと思います。まったくに未熟な私ですが、どうぞ指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



MEセンター長就任のご挨拶

昨今の急速な医療機器の進歩により、全国の大学病院ではME機器管理部門を独立させたMEセンターが開設されています。当島根大学医学部附属病院でも、平成21年4月からMEセンターが開設され、今回センター長に任命されました。私は卒業以来、外科医として日夜診療に携わってきました。現在は消化器・総合外科(肝・胆・膵外科)に所属しています。この間、手術室、ICU等には大変お世話になってきました。これまでの経験を生かし、弱輩ではありますがMEセンターが有効に活用されるように努力していきたいと考えています。

これまで、島根大学医学部附属病院では材料部が洗浄滅菌管理部門とME機器管理部門を運営してきました。この中からME機器管理部門をMEセンターとして独立させ、1) 医療機器の中央管理・修理、2) 医療機器に使用する消耗品の管理、3) 正しい医療機器の知識・操作の啓発、4) 高度な医療技術の提供(人工心肺、補助体外循環、血液浄化等)等を主な業務内容として活動する予定です。活動の場は、手術室、ICU、透析室、血管造影室などが主になりますが、病棟・外来でもME機器が盛んに使用されているため、病院全体というこ

肝・胆・膵外科 副診療科長
准教授 矢野 誠司



とになります。現在、MEセンターは5名の臨床工学技士と1名の技術補佐員で運営されていますが、今後は臨床工学技士が更に増員される予定です。これらのスタッフの方々と一緒に、島根大学医学部附属病院の高度な医療技術が安全かつ円滑に発揮されるよう努力していきたいと思います。

MEセンターは、各診療科の医師、看護師、コメディカルの皆様のご協力の上にはじめて役割が発揮されますので、今後ともご協力の程宜しくお願い申し上げます。

看護部長就任のご挨拶

この4月より、看護部長に就任いたしました。併せて今年度より看護部長が副病院長として登用され「医療の質管理担当」という大きな役割を担うことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

当院は昭和54年に開院以来、「地域医療と先進医療が調和する大学病院」の理念のもとに30年の月日が経ちました。地域の中であって、当院が果たすべき役割は何か、そして看護職が院内・院外において担っていくべきことは何かを、あらためて再考し具現化していきたいと考えています。

少子・高齢化の進展、生活習慣病の増加とそれに伴う要介護者の増加などにより、保健・医療・福祉分野における大きな転換期を迎えています。とりわけ島根県は全国一の高齢化率であり、これからの時代は益々看護職の果たす役割が大きくなります。“チーム医療”“役割分担”あるいは“連携”等に象徴されますように、シームレスな看護サービスの提供や他職種との協働・連携が重要不可欠であるため、看護職の強みを活かして、推進していきたいと思っています。

副病院長
看護部長 秦 美恵子



また看護職は患者さんに最も近いところにいます。現場の生の声に耳を傾け、患者の視点を重視した病院マネジメント体制が強化されるように繋げ、患者サービスの向上に努めたいと思います。

微力ではありますが皆さまのご協力を頂きながら、役割が果たせるように頑張っていきたいと思っています。

ささえあい医療人権センターCOML(コムル)による「病院探検隊」の実施について

患者満足度向上ワーキンググループ

一昨年より、「どのようにしたら患者さんの満足度が向上するのか。」ということの主目的として、「患者満足度向上WG」を立ち上げ、ポスター掲示による挨拶の励行や他病院の視察・見学結果を参考とすることにより、少しでも満足度を向上しようという活動を展開しています。

去る、3月4日(水)、今年度の活動の一環として、NPO法人 ささえあい医療人権センターCOML(コムル)(代表者:辻本好子理事長)による『病院探検隊』を実施し、患者さんの立場に立った医療が提供できているかについての評価をしていただきました。

午前中は、本院職員が案内して、総合受付窓口、外来診療科、採血室、病棟等をラウンドして見学する班(3名)、支障のない範囲で自由に院内を見学(探検)する班(3名)、模擬患者となって実際に(受付から料金支払までの一連の流れを体験)する班受診(2名)の三つの班に分かれて『病院探検隊』が実施されました。

昼食は、病院給食について栄養士から概略説明があった後、本院の普通食、糖尿病食、肝臓食、腎臓食及びバランス弁当の試食をしていただき、「シンプルではあるが、特に魚が新鮮で、全般的にとっても美味しかった。」と、好評を得ました。

その後、メンバーによる検討会が実施された後、15時から『病院探検隊』の実施結果についてのフィードバック及び意見交換会の時間が設けられ、本院からは、小林病院長を始め、吉岡看護部長、太田患者満足度向上WG座長やその他の病院スタッフが参加しました。

探検隊メンバーの率直な意見を真摯に拝聴し、可能な限り、今後の対応策等についてディスカッションしました。また、病院に勤務している者には気がつかない面についての指摘もあり、とても有意義な意見交換会となりました。

なお、メンバー各自の感想・意見を含めた詳細な報告書が、後日送付されることになっています。



フィードバック・意見交換会の様子

「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」プログラム 参加の感想

皮膚科 山崎 朋子

私は、島根大学医学部を平成18年度に卒業し、関西の病院で初期臨床研修を行った後、平成20年4月に当院皮膚科に入局いたしました。平成20年11月1日から平成21年1月16日までの2ヶ月半の間、「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」プログラムにより鳥取大学皮膚科で研修をさせていただきましたのでご報告いたします。

鳥取大学皮膚科と当科で最も大きく異なる点は、鳥取大学皮膚科は皮膚病理形態学、当科はアレルギー疾患と、主とする研究分野が異なることです。この違いは、各教室での研究だけでなく、来院される患者さんの疾患の割合や、行う検査の種類・数、カンファレンスの形式の違いなど、臨床現場にも大きく反映されていました。そのような違いを経験することは自分にとって刺激になり、違う分野を勉強するよいきっかけになりました。

また、鳥取大学の先生方とのご縁を持てたことも、非常に貴重なことと感じております。自分の研修を、

専門分野の異なる鳥取大学皮膚科と当科の連携につなげることができれば、両大学のメリットも大きいと考えております。

鳥取大学、島根大学の先生方、スタッフのみなさんのご指導、ご協力のもと、有意義な研修を行わせていただいたことを感謝いたします。



後列右から2番目が筆者

大学病院連携型高度医療人養成推進事業に参加して

整形外科 真子 卓也

私は“大学病院連携型高度医療人養成推進事業”というプログラムのもと、平成21年1月に兵庫医科大学整形外科にて1ヵ月間研修をさせていただきました。

当科からの本研修への参加は初めてであり、また研修先の兵庫医大も初めての受け入れとのことで「とりあえずはじめてみて、困ったらその都度考えましょう。」というスタンスで、正直不安が先行したスタートでした。

しかし、吉矢教授をはじめ兵庫医大整形外科のスタッフは関西人特有のノリで（心からrespectしています）温かく迎えてくださり、とても親切にいただきました。神戸製鋼ラグビー部のチームドクターとラグビー観戦をしたり（ルールは最後までよくわかりませんが...）、スタッフに飲み会に誘っていただいたりと院外研修も充実していました。時期によってはJリーグ観戦や甲子園球場の年間シートでのプロ野球観戦などもあるようでその点に関しては少し残念でした。

もちろんただ遊んできた訳ではなく、jointとhandを中心に兵庫医大整形外科の“準医局員”（教授にそう言っていました）として多くのことを経験させていただきました。たくさん手術に参加させていただき、はじめは兵庫医大の流儀（お作法？）がわからず戸惑いましたが、学ぶことが大変多く、手術室での時間が一番楽しかったような気がします。当たり前だと思っていたことがそうではなかったりして、今まで漫然と行ってきたことについてもその理由を考えるようになり、仕事に対する姿勢を正すよいきっかけになりました。

私は整形外科医としてまだまだ未熟であり“高度医療人”には程遠い存在ですが、本研修で学んだこと、感じたことを今後に生かし、精進していきたいと思えます。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった関係者の方々に深く感謝申し上げます。



カンファレンス風景 前列中央が筆者

飛び出せ病院説明会 “インフォメーション・スクエア”を実施して

看護部 秦 美恵子

去る1月31日(土) 益田駅前ビル EAGAにおいて、“インフォメーション・スクエア”を開催しました。これは県西部の看護学生に大学病院の役割機能や看護師の活動を紹介し、当大学病院への興味関心を高めてもらうために、今回はじめて企画しました。

当日の天候は、あいにくの荒れ模様になりましたが、20名の参加がありました。会場では、病院の概要、認定看護師の活動紹介、新人看護職育成・キャリア開発支援の紹介、働く環境や就業支援の紹介をパワーポイントや資料を使って行いました。また、パネル展示も行いました。年の近い先輩看護師からの発言や直接話しができる時間も設けて、交流する場を持ちました。

最後に行ったアンケートには、「大学病院は怖いイメージだったが、説明会に参加してみてイメージが変わりました。看護師さんの生の声が聞けて良かった。」「病院の説明会に参加してみて、話を聞くだけ

でなく会話ができ、コミュニケーションがとれて良い会だった」等たくさんの意見を頂きました。

今後の就職活動に役立つとうれしいです。



先輩看護師との交流会



病院の概要説明



パネル展示

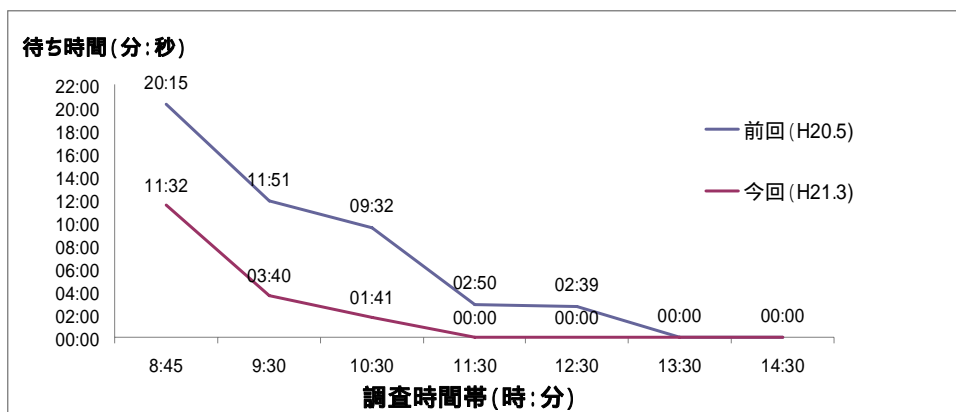
検査部採血室の待ち時間が大幅に短縮されました

検査部 柴田 宏

患者の皆様には日頃より採血業務にご協力をいただき、誠にありがとうございます。多くの患者さんが検尿・採血を必要とし、特に早朝の時間帯には患者さんが採尿・採血室に集中することから、順番待ちに時間を要し、ご迷惑をかけておりました。当院で診察を受けるうえで、診察日当日の健康状態を正しく診るためには迅速で正しい検査結果が必要不可欠です。採血待ち、結果待ちの長さや採血室の混雑がスムーズな診察を行ううえで障害となり憂慮しておりましたが、2008年3月に中央採血室を1.5倍に拡充し、採血台も増設することができました。同時に女性スタッフ支援室の協力を得て、パートタイムの採血要員としてUターンやI

ターンされた看護師、臨床検査技師を含めて雇用し、患者さんの多い時間帯に配置いたしました。その結果、下図に示すように昨年5月（H20.5）の調査時に比べ先月（H21.3）には大幅に短縮できたとの調査結果が出ました。改めて皆様のご協力に感謝申し上げます。

4月からはパートタイムの採血要員が2名雇用されましたので、さらに採血待ち時間の短縮が期待されます。今後も検証を重ね、パートタイム職員の配置時間配分を調整しながら、患者さんが気持ちよく採血を受けられるようにサービスの一層の向上と検査・診療の円滑な実施に努めてまいりますので、なお一層のご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。



検査部採血室待ち時間調査(平均)

患者サービス室外来担当及び入院担当業務の全面外部委託と「レセプトデータ電算チェックシステム」の導入について

医療サービス課患者サービス室

医療サービス課における外来・入院受付業務及び診療報酬請求業務（レセプト関係業務）は、その一部を外部委託により実施していましたが、平成21年度にあつては、諸事情により、これらの業務を全面的に外部委託することになりました。

これに伴って、現在配置している常勤職員6名のうち2名については、外部委託することができない業務及び収納・債権管理業務のうち、未収金対策の業務を一部担当させ、適正な診療報酬の確保及び病院収入の向上

に寄与させたいと考えます。また、他の4名については、学内における適切な人事異動を行うことによつて、特に、病院再開発部門等の体制が強化されることとなります。

また、より適正な診療報酬請求事務が実施できるツールとして、レセプトデータ電算チェックシステム「チェック アイ」を導入することになり、これによつて診療報酬請求額の査定減少及び請求漏れを防ぎ、病院収入の増収が期待できます。

平成20年度 島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催

会計課経営支援室

去る3月26日（木）平成20年度島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催しました。

この懇談会は、国立大学の法人化に伴い、新たな視点から外部有識者の意見等をいただき、附属病院の管理運営体制強化、臨床教育改善及び経営改善等に資することを目的に、中期目標中期計画に掲げ取り組みを行い設置したものです。

開催は昨年度に続き、今回は2回目の開催となりました。懇談会は、外部有識者として千葉大学医学研究院和漢診療学教授 寺澤捷年氏（元富山医科薬科大学医学部附属病院長）及び（財）星総合病院理事長 星 北斗氏（元日本医師会常任理事）の両氏に加え、病院長、副病院長、診療科長等から成る本院の経営企画戦略会議メンバーにより構成されています。

当日は、附属病院で昨年度以降新たに設置・整備したセンター及び大型医療機器等について視察を行った後、懇談会を開会し、医師・看護師など医療人の確保、経営改善の取り組み、附属病院の再開発事業及び中期目標中期計画の進捗状況等について、幅広く活発な意見交換が行われ、外部有識者からは、県内唯一の

特定機能病院としての地域医療への関わりや、本院独自の取り組みなどについて地域を含む学外に発信してはどうか等の有意義な提言が有る一方、本院が病院活性化に向けての数々の取り組みを迅速に行い、効果を上げていることについて高く評価したいとの講評を頂いたところです。

今後本院では、経営企画戦略会議を中心に懇談会の意見を参考に、より一層の改善に取り組むこととしています。



病院運営委員会の報告

H21年2月18日 病院予算により教員ポストを設け、必要な部署に配置することになりました。

附属病院予算による教員配置

	必要とする部署	現在の配置数	増員数	最終的 配置数	必要理由	採用時期
1	循環器内科	助教 1	(講師 1)	講師 1	循環器内科は、教授1名、助教3名の構成員であるが、循環器内科の診療、研究の中心となるべき講師ポストを配置し、診療の充実を図る。	21.4.1
2	緩和ケアセンター	講師 1	助教 2	講師 1 助教 2	新病棟建設に伴い、緩和ケア病棟21床を設置する計画であるが、稼動するためには、現在公募中の講師をリーダーとし、その他に2名のスタッフを増員する必要がある。	できるだけ早い時期
3	救急部	教授 1 准教授1 講師 1 助教 1	助教 2	教授 1 准教授1 講師 1 助教 3	救急部に講師、助教を配置し、新病棟建設後の救急医療の充実及びドクターヘリ業務遂行のためには、救急部の医師が少なくとも6名は必要であり、2名の増員が必要である。	できるだけ早い時期
4	ICU、HCU	講師 1 助教 2	助教 3	講師 1 助教 5	新病棟建設に伴い、ICU、HCUを30床設置する計画であるが、円滑に稼動するためには、現ICUの3名に加え3名の増員が必要である。	できるだけ早い時期
			(講師 1) 助教 7			

H21年2月18日 「臨床研究に係る損害保険」の包括保険契約を締結しました。

平成21年4月1日からの「臨床研究に関する倫理指針」の改定により、研究者等の責務として、介入を伴う研究であって、医薬品又は医療機器（体内挿入されない器具）を用いた予防、診断又は治療方法に関する研究を実施する場合には、あらかじめその実施に伴い被験者に生じた健康被害の補償のために、保険その他の必要な措置をこうじておかなければならない、と義務付けられました。

これを受けて本院では、健康被害が起きた場合、すでに加入している「病院損害賠償責任保険」による補償ができない事例(例：被験者の選定ミス、実施計画書の不備等)の補償をするため、この包括保険契約を締結しました。（なお、個々の臨床研究については、別途加入手続きが必要です。）

H21年3月18日 医師に待機手当が支給されることになりました。

医師が入院患者等の緊急診療等の業務に従事するため、午後5時15分から翌日の午前8時30分まで並びに休日及び夏季一斉休業日の午前8時30分から午後5時15分までの間に自宅等で待機を命ぜられた場合、待機1回につき5,000円の待機手当を平成21年4月1日から支給することになりました。

中央診療施設及び特殊診療施設の部長及びセンター長

任期：平成21年4月1日～平成23年3月31日

平成21年4月1日

部 長	氏 名	部 長	氏 名
検査部長	長井 篤 准教授	地域医療連携センター長	川内 秀之 教授
手術部長	佐倉 伸一 准教授	卒後臨床研修センター長	山口 修平 教授
放射線部長	北垣 一 教授	臨床遺伝診療部長	山口 清次 教授
材料部長	大平 明弘 教授	緩和ケアセンター長	齊藤 洋司 教授
輸血部長	益田 順一 教授	新生児集中治療部長	山口 清次 教授
救急部長	橋口 尚幸 教授	腫瘍センター長	石倉 浩人 教授
集中治療部長	齊藤 洋司 教授	臨床栄養部長	足立 経一 教授
病理部長	丸山 理留敬 教授	子どものこころ診療部長	岸 和子 講師
医療情報部長	津本 周作 教授	病院医学教育センター長	廣瀬 昌博 准教授
リハビリテーション部長	馬庭 壮吉 准教授	内視鏡手術トレーニングセンター長	山野井 彰 講師
光学医療診療部長	天野 祐二 准教授	地域医療教育研修センター長	石橋 豊 准教授
血液浄化治療部長	椎名 浩昭 准教授	MEセンター長	矢野 誠司 准教授
治験管理センター長	川内 秀之 教授		

その他のニュース

病院食堂が「ランチカフェ ラパン」としてリニューアルオープンしました

附属病院2階にレストラン「ランチカフェ ラパン」が4月1日にオープンしました。地元産の「安全・安心・新鮮な野菜」を使用したメニューを取り揃え、来院の皆様、職員の皆様に喜んでいただく食堂を目指します。

ご利用をお待ちしています。 営業時間 月曜日～金曜日 午前11時～午後3時



平成20年度病院長表彰

平成20年度の附属病院の運営に顕著な功績等があったとして、このほど3月18日に7名の職員が病院長表彰を受けました。受賞者は次の方々です。

- 山野井 彰 (内視鏡手術トレーニングセンター長)
- 國司 博行 (副臨床検査技師長)
- 森山 英彦 (主任臨床検査技師)
- 安部 富美子 (リスクマネージャー)
- 原 美知江 (看護師長)
- 藤田 直美 (看護師長)
- 山本 芳枝 (看護師長)
- 田中 要三 (ボランティア部代表)



学生、大学院生、医員、助教の教育表彰

3月18日医学部長室において、「ベストチューター賞」、「ベスト教育研修医賞」、「ベスト看護教育賞」、「研修医の選ぶベスト指導医賞」等の表彰が行われました。受賞者は次の方々です。

ベストチューター賞

- 井上 省吾 (泌尿器科学 助教)
- 松崎 健太郎 (環境生理学 助教)
- 町田 静香 (医学科6年)

ベスト教育研修医賞

- 小池 大輔
- 打田 裕子
- 狩野 芙美

ベスト看護教育賞

- 4階西病棟
- 8階東病棟

研修医の選ぶベスト指導医賞

- 岡本 栄祐 (肝臓内科 医員)
- 安部 哲史 (神経内科 医員)
- 家田 麻紗 (精神科神経科 医員)



病院長による記念バッジの贈呈

ボランティアコンサート等イベントの報告

平成21年1月28日(木)

大月箏曲教室による新春琴コンサート



平成21年3月23日(月)

コールメリー合唱団訪問コンサート



行事予定

4月行事予定 (は学外行事) (は松江キャンパス)

1	水	病院食堂オープンセレモニー, 教務委員会 平成21年度医員(研修医)への説明(講習)会(1日~13日)
3	金	季消防訓練
4	土	第22回国立大学周産母子センター会議(京都)
5	日	医学部新入生オリエンテーション
6	月	院外処方せん発行検討委員会, 入学式(松江), 大学院新入生オリエンテーション
7	火	病院長・副病院長会議, 診療録管理委員会, 手術部専門部会, 役員会
8	水	教授会, 大学院博士課程委員会, 医科学修士課程委員会
9	木	感染対策専門部会, 常任理事懇談会
13	月	医療安全管理委員会, 教育研究評議会, 看護研究倫理委員会
14	火	病院経営企画戦略会議, 局長・部長会議(TV会議)
15	水	病院運営委員会
16	木	常任理事懇談会, 医の倫理予備審査
20	月	会計検査院実地検査(20日~24日), 臨床研究審査部会
21	火	病院長・副病院長会議, 役員会, 看護学修士課程委員会
22	水	入学試験管理委員会
23	木	常任理事懇談会
24	金	全国医学部長・病院長会議中国・四国ブロック会議(岡山) 医学部及び医学部附属病院EMS対応合同委員会
27	月	リスクマネージャー会議及びICT会議, 医の倫理委員会 院内コンサート(外来ホール19:00~)
28	火	医学部・附属病院合同安全衛生委員会, 医療保険専門部会 局長・部長会議(TV会議), 教務委員会, 学生委員会
30	木	常任理事懇談会

5月行事予定

20	水	病院運営委員会
22	金	全国医学部長・病院長会議平成21年度定例総会
28	木	臨時中国四国地区国立大学病院事務部長会議

6月行事予定

2	火	「落語と紙切り」公演(外来ホール)
12	金	第87回国立大学医学部長会議
17	水	病院運営委員会
18	木	国立15大学病院長会議

研修会・講演会・学会等の予定

名 称	日 時	場 所	担 当
【講演会・研修会】			
第15回島根皮膚疾患治療フォーラム	平成21年4月16日(木) 19:15~	出雲ロイヤルホテル	皮膚科
心臓・肺・大動脈手術体験セミナー	平成21年4月16日(木) 17:00~	循環器・呼吸器外科医局	循環器・呼吸器外科
〃	平成21年5月8日(金) 17:00~	〃	〃
精神医学セミナー	平成21年4月17日(金) 18:30~	看護学科棟N11講義室	精神医学講座
〃	平成21年6月5日(金) 18:30~	〃	〃
第18回病態生化学セミナー	平成21年5月27日(水) 18:00~	臨床小講堂	病態生化学
第19回病態生化学セミナー	平成21年6月5日(金) 18:30~	看護学科棟3階会議室	〃
第20回病態生化学セミナー	平成21年6月29日(月) 18:30~	〃	〃
第31回NST特別講演会	平成21年4月24日(金) 18:30~	臨床大講堂	臨床栄養部
第32回NST特別講演会	平成21年5月29日(金) 18:00~	〃	〃

注) 島根県内で開催されるもの若しくは本院が主催するもので平成21年6月までの予定を掲載

お知らせ 病院ニュースは、医学部ホームページの医学部掲示板にも掲載しております。

編集委員会からのお願い

病院ニュースは年4回発行予定です。
各診療科、各部門、事務部からの投稿をお待ちしております。
行事予定、ニュース、PRなどを編集委員会へお寄せください。
病院ニュースについてご意見があればお知らせください。
担当

医療サービス課 医療支援室(内線2069、2068) Email:renkei@med.shimane-u.ac.jp

